

~愛知県からの1ターン~

なかがわやすとも

中川愛知さんへの

インタビュー

移住歴8か月目の

30代・男性に
聞きました♪



- 職業：林業
- 家族構成：妻・子ども
- 移住年：2018年

「仕事としてしっかり向き合いたい」その思いを抱いて松阪市飯高町で林業を始めた中川さん。
三重県津市一身田のご出身で、大学進学の際に愛知県に移住しました。
飯高町には住み始めて約8か月になります。空家バンクを利用して住居を決め、「すぐに入居できたことが良かった」と話す中川さん。家主さんと良い関係が築けたことも安心して住み始めることができる理由でした。
はじめは、地域の方に自分が受け入れられるかと不安もありました。しかし、実際住んでみると周りの方はよくしてくれる方ばかりだったそうです。草刈りや清掃などの地域行事に参加したい気持ちはあるものの、仕事のために参加できずにいたとき、「無理はしなくていいよ」と地域の方が言ってくれて、安心したそうです。
そう言ってもらえたのは、きつと、日頃から道で会ったときに他愛もない会話をしたり、空家バンクで入居が決まった際の地域面談や地域の会議で、顔見知りになっていたことが大きかったのではないのでしょうか。
「マンション等とは違い、住んでいる人の顔がわかることが良い」と話してくれましたが、きつと地域の方も同じことを思っているのではないのでしょうか。

住んでいる人の顔がわかる

『住み良い場所』

実際に住んでみて、良くなかったことをお聞きすると「店が少なくても、車があるので大丈夫。良くなかったことは一つもない」と話してくれました。
そんな中川さんですが、なんと林業をするのは飯高町に来てからが初めて。もともとは教育職などに就いていましたが、不特定多数の人々とかかわるよりも仕事そのものに向き合い、自分で責任をもってできる仕事をしたという思いから、ふと「木こりになりたい」と思い立ち、林業を始めたいそうです。林業をするうえで必要な資格を取るために研修を受け、今の会社が中川さんを受け入れたことがきっかけで飯高町に移住しました。この仕事をして一番良かったことは昼ご飯がおいしいことだそうです。「外で食べる飯はうまい」と笑顔で話してくださいました。

「本当に、住めば都です」と話す中川さん。単身で松阪市へ移住したため、愛知県に住む家族とは週に一度しか会えない寂しさもあるそうです。しかし、自分のしたい仕事をして、自然と地域の方と触れ合いながら、生き生きと暮らしています。

